



2012年3月13日

H5N1 インフルエンザワクチン ASP7373 の第 II 相臨床試験において 免疫原性及び良好な忍容性が確認されました

アステラス製薬株式会社（本社：東京、社長：畑中 好彦）と株式会社 UMN ファーマ（本社：秋田市、社長：金指 秀一、以下「UMN ファーマ」）は、両社が共同で開発を進めている組換えインフルエンザ HA ワクチン（H5N1）ASP7373（UMN ファーマの開発コード：UMN-0501）の第 II 相臨床試験において、免疫原性と良好な忍容性が確認されたのでお知らせします。

この臨床試験では、健康成人被験者 180 名を対象に ASP7373 の 3 用量を 3 週間隔で 2 回筋肉内接種することにより、免疫原性及び安全性を比較検討し、ASP7373 の臨床推奨用量を検討することを主な目的としていました。2011 年 11 月 11 日付プレスリリースにてお知らせしました通り、被験者全例への治験薬接種が完了し、データの集計作業を行なっていました。

今回、ASP7373 の免疫原性が確認されるとともに、重篤な有害事象も認められず、良好な忍容性が確認されました。

ASP7373 は、バイオ医薬品の次世代製造プラットフォームである BEVS (Baculovirus Expression Vector System) を用いた細胞培養法で製造される組換えインフルエンザ HA ワクチン（H5N1）です。UMN ファーマが 2008 年から日本における臨床開発を開始し、すでに 3 試験を実施済みです。

お問い合わせ先
アステラス製薬株式会社 広報部 TEL:03-3244-3201 FAX:03-5201-7473
株式会社 UMN ファーマ 事業開発部 TEL:045-624-8341 E-mail: press@umnpharma.com